



Photograph: Eito Mars

“ありのまま”の美しさ。
それぞれの「生きる」の形。

生きるを伝える写真展 mini

at 福井大学医学部附属病院

www.ikiru-syashinten.jimdofree.com

2018 7.17[火] — 7.23[月]

時間 9:00 ~ 16:00

場所 B棟 1階 患者・家族サロン「やわらぎ」
(タリーズコーヒー裏)

予約不要・入場無料



開催概要

高橋 絵麻さんとの出会いは1年前。
自分の心に素直に生きる彼女はとても輝いて見えました。
そして、がんである彼女は普通に生きる私よりも、とても力強いように感じました。
彼女が命を輝かせながら作り上げた「生きるを伝える写真展」。
モデルとなった女性たちは皆、病や髪が有る無しに関わらず、命の光を
めいっばい輝かせています。

“生きる希望を届けたい”

その想いは地域ナースを含めた多くの医療者の賛同を得て、病院と地域をつなぐ場所、自分らしさを取り戻す場所…「患者・家族サロンやわらぎ」で写真展を開催することとなりました。
私たちは常に、患者さんたちやその家族の笑顔が見たいと思っています。
医療者と患者という垣根をこえて、私たちとゆっくりと話をしてみませんか？
様々な“人と人のあたたかいつながり”が生まれることを願っています。
期間中はどんな事でも気軽に相談できるよう医療者が常駐し、写真展を盛り上げます。

是非、お気軽に足を運んでくださいね。

訪問看護師 加藤 瑞穂

患者・家族サロン「やわらぎ」ご案内

患者・家族サロン「やわらぎ」は、
・病気の情報を収集すること
・病気に関する相談をすること
を目的として開設されました。

ひとりで
ゆっくり
過ごしたい

いまの想いを
聞いて
もらいたい

情報が
知りたい

そんな方のためのサロンです。

これまでに次のような催しを行ってきました。

「栄養相談会」「就労相談会」
「折り紙サロン」
「どんぐりでリースを作ろう会」
「ケア帽子をつくろう」
「頭皮ケア、ウィッグ相談会」

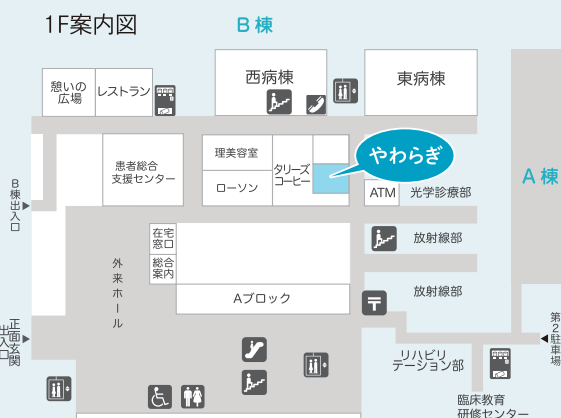
患者さん同士や、患者さんに寄り添うご家族の方の、ところをつなぐサロンです。
相談される場合は、やわらぎ入り口の受話器にて、お気軽に担当看護師にご連絡ください。

患者さんやそのご家族、ご友人、他院の患者様などどなたでもご利用できます。
お気軽に近くの病棟・外来看護師にお声掛けください。

サロン開放時間
平日 9:00~17:00

福井大学医学部附属病院
がん診療推進センター 患者・家族サロン担当
0776-61-3111 (PHS 4869)

1F案内図



期間中開催イベント

サロンdeトーク

予約不要・入場無料

開催期間中は病院看護師、訪問看護師、医師、保健師、心理士など、様々な職種の方がいます。
日頃聞いてみたいこと、私たちとんでも話ませんか？
お気軽にお声かけください。

お問い合わせ先

福井大学医学部附属病院がん診療推進センター
0776-61-8655

7/17[火]

児玉 麻衣子 さん

15:00~16:00

福井大学医学部附属病院
緩和ケアチーム医師・特命助教

7/17[火]

乗原 希恵 さん

18[水]

9:00~11:00

福井大学医学部附属病院
認定がん専門相談員(看護師)

7/18[水]

やしろ 恵利 さん

10:30~15:00

認定心理士・心理相談員
AEAJ・アロマハンドセラピスト

7/18[水]

小林 美貴 さん

14:00~16:00

福井大学医学部附属病院
緩和ケア認定看護師

7/18[水]

横井 繁周 さん

15:00~16:00

福井大学医学部附属病院
乳癌外科医師・助教

7/19[木]

高野 智早 さん

14:30~15:30

福井大学医学部附属病院
がん看護専門看護師

7/20[金]

23[月]

9:00~11:00

浦井 真友美 さん

福井大学医学部附属病院
乳がん看護認定看護師

7/20[金]

福田 弥生 さん

13:00~15:00

訪問看護ステーション府中管理者
訪問看護認定看護師

7/20[金]

片山 寛次 さん

14:00~15:00

福井大学医学部附属病院
がん診療推進センター長

7/21[土]

川瀬 千里 さん

10:00~15:00

保健師

7/22[日]

23[月]

9:00~11:00

加藤 瑞穂 さん

こばんだ訪問看護ステーション
訪問看護師

7/17[火] 15:00~

Talk & Photo

みんなで集合写真撮影

予約不要・入場無料

message

サバイバーの方には、

“あなただけじゃないよ、みんなと一緒に越えていこう”

“一人で抱え込まなくていいよ、どんな想いもシェアしながら生きていこう”
というメッセージを。

罹患者の方には、

“この病気はごく近いところにいるということ”

“自分のことを後回しにしないで、もっと自分に素直に生きてほしい”

“人生をめいっぱい楽しんでほしいということ”

というメッセージを。

それぞれの『生きる』の形を通して、自分の『生きる』とは何か？』を感じてほしい。

ありのままって美しい！それぞれの立場の方に安心感を伝えたい。

プロジェクト発起人 高橋 絵麻

写真展mini初日は、写真展発起人でもある乳がんサバイバー高橋絵麻さんがご来場されます。また、写真展の撮影を担当した Eito Mars さんによる集合写真撮影を行います。



フォトグラファー

EitoMars (エイトマーズ)

フォトスタジオ TOL 代表。母の遺影を撮影したことをきっかけに、まるで声が聞こえてくるような「生きる写真力」に魅了されカメラマンを志す。これまでファッションブランド撮影や、西武百貨店などで数多くの写真展を開催。鮮明で躍動感のある写真が特徴的。現在は東京にて「1000人の輝きを写すプロジェクト」を始動するなど活躍の場を広げている。最高のヒトコマを切り取る「瞬間のフォトグラファー」。

乳がんサバイバー

Ema Takahashi

7歳と2歳の娘2人を持つyogaインストラクター。2015年10月にステージ3aの乳がんと診断される。がんであることを公表し、治療と並行しながら啓蒙活動として「しこり触ってキャンペーン」を実施。手術までに約250人がキャンペーンに参加。その後全摘手術を受ける。現在は地域での乳がんの啓蒙活動、並びに「病になっても案に生きていける、助け合える社会」を目指して活動を続けている。

